

令和2年度

事業報告書

自 令和2年4月1日

至 令和3年3月31日

社会福祉法人 東京福社会

I 令和2年度の経営環境と事業の概況

- 1 令和2年、東京都の高齢者人口は311万1千人となり、対前年比では1万5千人(0.5%)の増加となった。高齢化率は23.3%であり、平成29年から4年連続の横ばいとなった。

このうち、「75歳以上の人口」は163万9千人で対前年比1万9千人(1.2%)の増加、「80歳以上の人口」は100万7千人で、対前年比3万2千人(3.3%)の増加となり、初めて100万人を超えた。

また、令和元年中の東京都内の死亡者数は120千人余りとなっており、13年連続増加となった一方、新型コロナウイルス感染症拡大の影響も受け、葬儀の小規模化、簡素化が一段と進んでいる。令和2年度も通夜を行わない一日葬や通夜、告別式を行わない直葬の増加が目立った。

- 2 このような状況のなか、令和2年度はソーシャルディスタンスや衛生設備の充実など、新型コロナウイルス感染症防止対策を講じながら、東京福社会の家族葬「近親葬」のPRを行い会葬者数の増加を図るとともに、湯灌等のオプション品の提案にも積極的に取り組んだ。

この結果、助葬事業は3,376件と7年連続で3,000件を超えることができたが、前年度を125件下回った。また、公益事業は1,429件と前年度を23件下回ったとともに、1件単価が92万1千円となったことから、事業収入は5億5,179万7千円の減となった。

助葬、公益合わせた事業実績でみると、施行件数4,805件、事業収入20億2,911万5千円となった。

- 3 高齢福祉部門においては、新型コロナウイルス感染症防止に努めた結果、特養の利用率は練馬高松園で1.7%、第2練馬高松園で0.6%前年度を上回った。しかし、練馬高松園においては、ショートステイやデイサービスの利用率が前年度を大きく下回ったことから、開設後初めて赤字決算となった。

また、第3練馬高松園の開設に向けた人材の育成、施設の活性化及び一体的運営の促進のため両園の人事交流を行うとともに、第3練馬高松園開設準備室部長や連絡調整担当も交えて施設長会を定期的で開催し、課題の解決に取り組んだ。

- 4 法人全体のサービス活動収益は33億8,611万4千円、当期活動増減差額は1億8,789万2千円となった。

II 主要事業の事業実績

1. 葬祭部門

(1) 助葬事業

施行件数：3,376件（目標達成率 91.3%）

事業収入：713,617千円（目標達成率 93.3%）

助葬事業取扱状況

（単位：件／千円）

区分	事業計画（目標）		事業実績		目標達成率	
	施行件数	事業収入	施行件数	事業収入	施行件数	事業収入
令和2年度	3,696	765,087	3,376	713,617	91.3%	93.3%
令和元年度	3,578	740,646	3,501	739,023	97.8%	99.8%
差異	118	24,441	△ 125	△ 25,406		
前年度対比	103.3%	103.3%	96.4%	96.6%		

斎場別内訳

（単位：件／千円）

区分	事業計画（目標）		事業実績		目標達成率	
	施行件数	事業収入	施行件数	事業収入	施行件数	事業収入
道灌山会館	151	31,219	167	37,942	110.6%	121.5%
江古田斎場	2,950	610,701	2,669	563,236	90.5%	92.2%
ホール多摩国立	595	123,167	540	112,439	90.8%	91.3%
合計	3,696	765,087	3,376	713,617	91.3%	93.3%

助葬事業の主な取組み

助葬事業渉外活動訪問先別件数

（単位：件）

訪問先	渉外部		業務本部		計		目標達成率
	事業計画（目標）	実績	事業計画（目標）	実績	事業計画（目標）	実績	
福祉事務所（行旅）	50	50	108	448	158	498	315.2%
警察署	142	131	54	24	196	155	79.1%
社会福祉協議会	43	44	11	54	54	98	181.5%
病院	340	254	140	114	480	368	76.7%
老人保健施設	100	74	40	15	140	89	63.6%
特別養護老人ホーム	250	230	100	162	350	392	112.0%
有料老人ホーム	140	207	40	102	180	309	171.7%
訪問介護事業所	895	1,040	347	250	1,242	1,290	103.9%
訪問看護事業所	630	467	260	21	890	488	54.8%
地域包括支援センター	210	268	100	13	310	281	90.6%
寺院・公益団体・企業等		4		603		607	
計	2,800	2,769	1,200	1,806	4,000	4,575	114.4%

※寺院・公益団体・企業等の訪問先は事業計画後に追加

訪問営業活動の拡充・強化

福祉事務所は福祉課、寺院や公益団体、企業等は業務本部、老人保健施設や病院などを渉外推進本部が訪問し、地域や業態等により訪問先を分担する地区担当制を導入した。

新型コロナウイルス感染症拡大の影響で、訪問活動を自粛した期間もあり、警察署や病院、今年度より新たな訪問対象とした地域包括支援センターや訪問介護、看護事業所など、一部の訪問先は目標件数を下回ったものの、都内の福祉事務所や社会福祉協議会等への訪問件数を増やしたことにより目標を上回った。

また訪問活動に際しては、訪問対象ごとのセールスポイントを明確にした宣伝材料を作成、活用しながら、東京福祉会の助葬事業の実績やメリット等のPRに努めるとともに、業務本部と定期的に営業会議を開催して宣伝材料やノウハウの開発・共用化も進めた。

(2) 公益事業

施行件数：1,429件 (目標達成率 89.6%)

事業収入：1,315,498千円 (目標達成率 57.0%)

1件単価：921千円 (元年度 1,287千円)

公益事業取扱状況

(単位：件/千円)

区分	事業計画 (目標)		事業実績		目標達成率	
	施行件数	事業収入	施行件数	事業収入	施行件数	事業収入
令和2年度	1,594	2,308,846	1,429	1,315,498	89.6%	57.0%
令和元年度	1,578	2,272,486	1,452	1,867,295	92.0%	82.2%
差異	16	36,360	△ 23	△ 551,797		
前年度対比	101.0%	101.6%	98.4%	70.4%		

斎場別内訳

(単位：件/千円)

区分	事業計画 (目標)		事業実績		目標達成率	
	施行件数	事業収入	施行件数	事業収入	施行件数	事業収入
道灌山会館	485	658,021	384	326,725	79.2%	49.7%
江古田斎場	994	1,512,294	972	932,701	97.8%	61.7%
ホール多摩国立	115	138,531	73	56,072	63.5%	40.5%
合計	1,594	2,308,846	1,429	1,315,498	89.6%	57.0%

※1. 道灌山会館の施行件数には、日本歯科大から依頼の献体火葬(直葬)を含む

※2. 江古田斎場の売上高には、単品の生花を含む

公益事業の主な取り組み

①会友Bプラン新規加入者1,000人以上を目指した取り組み

新型コロナウイルス感染症拡大の影響により当会主催の行事を中止したことから、「会友Bプラン特別加入制度」や「紹介者制度」、事前相談時の他、東京福祉会だより「響」やホームページを活用し加入促進に努めた。

その結果、新型コロナウイルス感染症拡大の影響もあり、目標は下回ったものの加入者は712人となった。

②東京福祉会の家族葬「近親葬」のPR

近年の葬儀の小規模化、簡素化に伴い、「家族・親族と親交のあった友人を招いて、親しい方で見送る場」という意味の東京福祉会の家族葬「近親葬」をホームページや折込み広告、ポスティングチラシ等で広く周知、PRに努め、会葬者数の増加を図った。

また、機関紙の東京福祉会だより「響」において「近親葬について」の記事を掲載し、近親葬の意味するところについても理解いただけるよう努めた。

③団体特約契約締結の推進

特別養護老人ホームや訪問系介護事業者等に対して訪問活動時に、団体特約契約のメリットをPRし、締結に結び付けるよう努める。

また、ホームページに団体専用のお問い合わせページを作成し、9月から運用を開始した。

④CSR（組織体の社会的責任）の取り組み

新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、施設開放や終活セミナーなどは中止したが、道灌山会館、江古田斎場での朝の地域清掃活動やホール多摩国立で行っている通学路での見守り活動、交通誘導は、緊急事態宣言期間中を除き、密にならないよう、分散しながら定期的を実施した。

⑤葬儀のクオリティの向上

・顧客満足による収益の向上

「サービスの標準化Q&A集」の更新を、重大事故防止委員会や提携業者連絡会及び新型コロナウイルス感染症対策などの情報を基に精査し、充実を図った。これにより50問が追加され合計304問のQ&A集となった。

・近親葬の拡充による一日葬対策

近親葬や一日葬、直葬の増加に伴う減収対策として、故人との最後の時間を過ごしてもらうため、前日の会食など葬儀以外のプラスの提案を行う計画であったが、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により会食の提案は自粛した。

会食に代わる提案としてグルメカタログの販売や、故人への感謝、敬意を表するものとして湯灌を提案した。家族からは好評であった。

・推奨する商品やオプションの明確化

推奨祭壇の受注は、コロナ禍における葬儀の小規模化の影響で減少したが、白木祭壇の受注件数は生花祭壇よりも安価なことや、他社の低価格な祭壇の影響もあり横這いであった。

(3) 霊園事業

霊園事業 事業収入の状況 (単位：千円)

区分	事業計画 (目標)	事業実績	目標達成率
令和2年度	137,849	115,503	83.8%
令和元年度	133,834	127,438	95.2%
差異	4,015	△ 11,935	
前年度対比	103.0%	90.6%	

令和2年度霊園事業の事業実績は、前年度と比較して11,935千円の減となった。これは主に新型コロナウイルス感染症拡大の影響で、彼岸会や盂蘭盆会の法要を役職員のみで実施し、一般参列や塔婆などの受付を中止したこと及び法事件数の減少が要因である。

2. 高齢福祉部門

特別養護老人ホームの利用実績

区分		特養	ショートステイ	特養 + ショートステイ	一般デイサービス	認知症デイサービス	一般+認知症デイサービス	居宅介護支援
練馬高松園	事業計画(目標)	96.6%	108.1%	98.3%	94.0%	70.0%	87.1%	70件(月)
	令和2年度	97.8%	77.3%	95.3%	69.7%	33.8%	54.8%	72.0件
	令和元年度	96.1%	100.4%	96.6%	79.2%	54.0%	72.2%	67.3件
	前年度対比	101.7%	77.0%	98.7%	88.0%	62.6%	75.9%	107.1%
第2練馬高松園	事業計画(目標)	96.6%	108.1%	98.3%				
	令和2年度	97.5%	97.9%	97.5%				
	令和元年度	96.9%	107.2%	98.3%				
	前年度対比	100.6%	91.3%	99.2%				

(1) 利用率の向上に向けた取り組み

特養は補助金を活用しながら入所前にPCR検査を実施し、陰性確認後に入所手続きを行い、面会はオンラインで対応した。入所者の状態に関しては電話や書面、広報誌などを活用しながら家族に随時報告を行うなど、新型コロナウ

ウイルス感染症防止対策に努めた。医療機関の入院制限もあり、入院日数も大幅に減少したことから、利用率は前年と比べ向上した。

しかしながら、ショートステイにおいては、新型コロナウイルス感染症の影響で、家族が外出を取りやめ在宅介護に切り替えたことによるキャンセルや、新規受け入れをお断りするケースもあったことから、利用率は大幅に減少となった。

また、デイサービスにおいては利用を控える方も多くいたことから、職員や利用者の検温、こまめな消毒、飛沫防止パネルを導入するなど、感染症予防対策を徹底し、安心して利用出来る環境を整えたが利用率は減少した。

(2) 施設の一体的運営の促進及びより安心で安全な施設運営とサービス向上

両園の施設長が中心となり、第3練馬高松園開設準備室部長、連絡調整担当も交えながら施設長会を毎月開催し、施設の利用状況や職員採用状況、事故報告など安心、安全な施設運営のための情報共有を行った。

また、共同購入することで経費削減となる消耗品や給食業者、建物管理業務委託等も一本化を図り経費削減に努めた。

その他、感染症対策や事故防止、看取り介護等の園内研修を実施したほか、新型コロナウイルス感染症の感染拡大状況に応じてビデオ視聴型の研修にも取り組み、サービスの向上を図った。

(3) 利用者の健康維持に努めた個別ケアの充実

コロナ禍のため利用者の健康管理には細心の注意を払った。その際、嘱託医の指導の下、医療的ケアが必要な利用者には出来る範囲で対応し健康維持に努めた。

(4) 人材養成の強化と福祉人材の確保

人材養成のため、職員の資質向上を図る取り組みとして、新型コロナウイルス感染症防止対策をしながら施設内外の研修に参加した。施設内研修においてはオンラインやビデオ、電子教材を活用して実施した。

また、福祉人材を確保するため、「介護初任者研修」の実施を予定していたが、新型コロナウイルス感染症拡大の影響で中止した。

その他、外国人技能実習生受け入れの為、オンラインによる採用活動を行い、令和3年度2名の採用が決定した(ベトナム)ほか、受け入れのための宿舍の整備も行った。

(5) 特別養護老人ホーム第3練馬高松園建設に向けた取り組み

令和3年4月1日開設に向け建設を進めていたが、新型コロナウイルス感染症拡大の影響による資材等の納入の遅れにより、3月2日竣工、5月1日開所となった。また、外国人技能実習生の受け入れについては、国の方針によるベトナムからの入国制限の為、入国出来ていない。

3. 自立支援事業の実施

東京都、特別区、自立支援センター等と連携し、路上生活者の地域生活のための住宅を借り上げ、管理する事業を行った。

令和2年度の住宅の借上げは前年度同様に2箇所合計60戸だった。

借上げ住宅 利用状況

項目	荒川寮 (有隣協会)	墨田寮 (新栄会)	合計
借上げ戸数	30戸	30戸	60戸
在所者数	17名	17名	34名
平均在所日数	106.4日	60.1日	72.7日
平均年齢	54.1歳	52.5歳	53.0歳

4. 基幹業務総合管理システムの見直し

市販システムのデモ機について、葬祭事業3社及び霊園事業1社の機能調査を行うとともに、プロポーザル実施に向けた仕様書の作成を、埼玉ITコーディネーターの指導の下着手した。

5. 組織・経営基盤の強化

(1) 内部統制、企画調整機能の充実とその発揮

監査法人の助言事項に基づき、購買に関する手続きを明確で実効性のあるものとするため、購買管理要綱の改正を行った。また、葬祭部門における共通経費の取扱いに関して、1日葬の増加など葬儀様式の変化により既存の配分基準が不合理であることから、葬祭部門の会計処理における共通経費の配分取扱要綱の改正を行った。

また、業者選定等委員会など11件の委員会の事務局を担い、適正な契約手続きの支援をするとともに、7件の入札やプロポーザルにて適正な業者選定も行った。

(2) 新特養の建設に関わる会計処理・契約事務

第3練馬高松園開設に向けて会計区分の新設や共通経費の配分方法の設定、各種規程等の整備を実施した。また、器具備品等の固定資産等の契約は、競争性のある入札等で選定し締結した。なお、給食業務委託、建物総合管理委託、廃棄物処理業務委託の契約は、スケールメリットのある業者を選定のうえ、高齢福祉部門の3施設合同契約を締結した。

(3) 積極的な労務管理

新型コロナウイルス感染症の影響もあり、葬祭部門の平均残業時間は前年と比べ、約60時間減となった。また、年次有給休暇の平均取得率は12.5日となった。

6. 法人全体の財務状況

令和2年度における事業活動増減の状況は、サービス活動収益は3,386,114千円で、前年度に比して560,726千円の減となった。サービス活動費用は3,191,303千円で、前年度に比して470,399千円の減となった。その結果サービス活動増減差額は194,811千円となり、前年度に比して90,327千円の減となった。

なお、経常増減差額は193,509千円となり前年度に比して122,155千円の減となっている。

事業別 事業活動増減の状況(令和2年4月1日～令和3年3月31日)

(単位：千円)

項目	令和2年度									令和元年度 法人合計 B	増減 A-B
	法人合計 A	本部	葬祭事業	自立支援 事業	練馬高松園	第2 練馬高松園	聖恩山霊園	第3 練馬高松園			
サービス 活動 増減	収益	3,386,114	0	2,075,802	56,999	675,796	432,175	115,503	29,838	3,946,840	△560,726
	費用	3,191,303	45,663	1,853,735	57,865	682,754	412,636	74,521	64,128	3,661,702	△470,399
	増減差額①	194,811	△45,663	222,067	△866	△6,958	19,539	40,982	△34,290	285,138	△90,327
サービス 活動外 増減	収益	6,797	124	1,425	48	2,658	2,459	68	15	39,478	△32,681
	費用	8,099	0	830	0	2,473	4,796	0	0	8,952	△853
	増減差額②	△1,302	124	595	48	185	△2,337	68	15	30,526	△31,828
経常増減差額③(①+②)	193,509	△45,539	222,662	△818	△6,773	17,202	41,050	△34,275	315,664	△122,155	

注1. 千円未満四捨五入のため合計等が一致しない場合がある。

事業別 資金収支の状況(令和2年4月1日～令和3年3月31日)

(単位：千円)

項目	令和2年度 決算									令和2年度 予算 事業合計 B	差異 B-A
	事業合計 A	本部	葬祭事業	自立支援 事業	練馬高松園	第2 練馬高松園	聖恩山霊園	第3 練馬高松園			
事業 収支 活動	収入	3,392,960	124	2,077,227	57,097	678,455	434,634	115,571	29,853	4,509,617	1,116,657
	支出	2,997,952	43,379	1,729,283	57,519	662,120	390,502	63,065	52,083	3,786,949	788,997
	収支差額①	395,009	△43,255	347,945	△423	16,334	44,131	52,506	△22,230	722,668	327,660
施設 整備 等 収支	収入	1,009,978	0	22	0	6,382	6,224	0	997,350	1,030,050	20,072
	支出	1,822,084	57,500	94,758	86	19,860	38,941	0	1,610,939	1,830,017	7,933
	収支差額②	△812,107	△57,500	△94,736	△86	△13,478	△32,718	0	△613,590	△799,967	12,140
活動 その他 収支	収入	1,715,897	1,336,386	40,732	1,482	0	0	6,802	550,000	562,492	△1,153,405
	支出	291,750	119,000	162,158	1,482	0	63	9,350	0	253,868	△37,882
	収支差額③	1,643,351	1,217,386	△121,426	0	0	△63	△2,547	550,000	308,624	△1,334,726

注1. 内部取引消去をしているため、拠点合計と一致しない。

注2. 千円未満四捨五入のため合計等が一致しない場合がある。